



ベルクソンが語る
「流れを無視する不条理」

人はなぜ流れを無視してしまうのか？

本来の姿

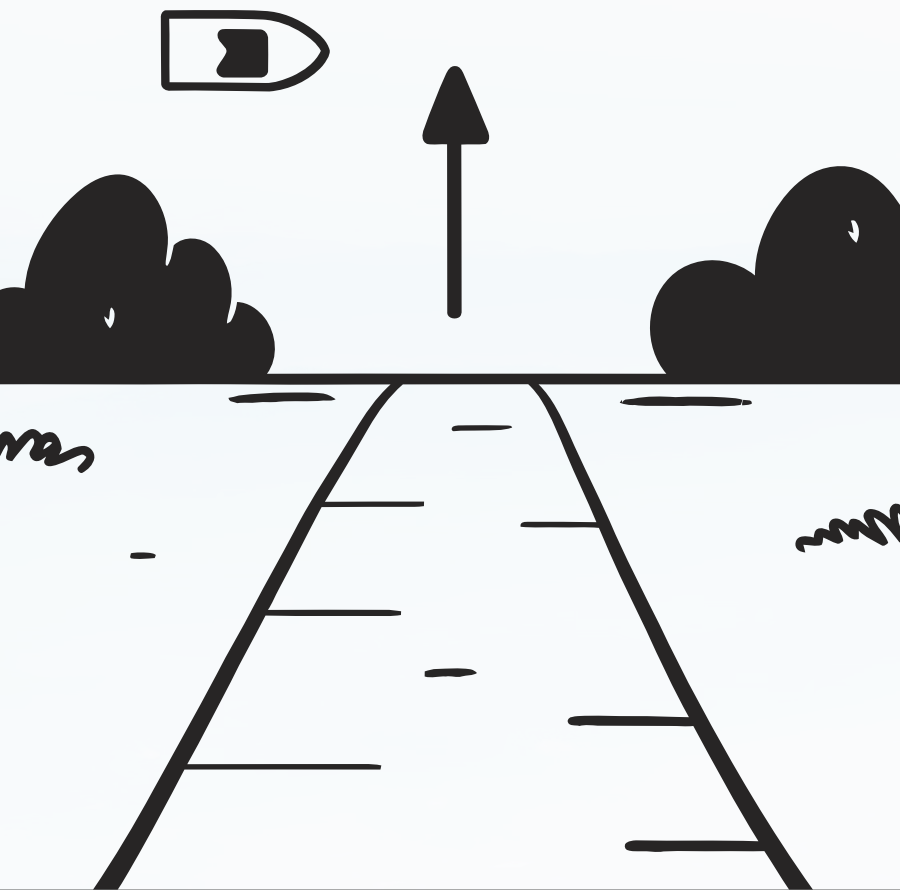
本来は"流れ続けている"はずのものを

人の錯覚

「静止した瞬間」で理解しようとしてしまう

ベルクソンの指摘

これがベルクソンが指摘した人の最大の錯覚



ゼノンの飛ぶ矢パラドックスとは?

- 動く矢を「瞬間」で切り取ると止まって見える
- すべての瞬間で止まっているなら
- 「矢は永遠に到達しない」という「矛盾」が生まれる
- これは"流れを無視した結果生じる不条理"
- この「矛盾」は信念やトラウマの理解に大切なキーワード

ゼノンの矢に対するベルクソンの論点



矛盾の原因

「時間を静止点の集まりとして扱うから矛盾が生まれる」



本当の時間

本当の時間は"持続で連続"しているものであり流れ。



流れの本質

流れは切り離せない・止められない



動きの真実

静止した点をいくら積んでも「動き」にはならない

流れを無視するデメリット① 本質が見えなくなる

- 変化し続けるものを"点"で扱うと
- 生命の躍動・感情の深みが消える
- 評価・観察が全部ズレる。答えにたどり着かなくなる。



デメリット②

偽の矛盾に行き着く



- 飛ぶ矢のパラドックスのように
- 頭の中にしか存在しない矛盾を作ってしまう
- 「動いているはずのものが動かない世界」が生まれる

デメリット③

心理・意識を誤解する

01

感情の断片化

感情の"流れ"を切ると単語の羅列になる

03

真の理解

本来感情もラベル化できない連続したものの流れという認識を持つことが、真の感情リリースには必要。

02

ラベル化の問題

怒り・悲しみなどラベル化されてしまうと、本当のプロセス(なぜ起きたか)が見えなくなる

04

モノ化の矛盾

だけど、人は感情でさえも、ラベル化(モノ化)し、比較の対象とする。私の方がつらい。あのひとよりはマシだなど。感情をレベル1、2みたいにはできないし、あの人より私の方が2倍つらいとかは言えないと本質的に分かっているのに、モノ化しようとする。この矛盾を無意識に内包し実体化させているのが人。

デメリット④

生きたものを"死んだもの"として扱う

生命の特徴

生命の特徴=生成・変化・流動

静止化の誤解

これを"静止した分類"で扱うと人間そのものを誤解し始める

死と機械化

死=動かない=固定化されたもの=機械。

ゼノンの矢の象徴

機械化こそ、バカげた理論に思えるゼノンの矢の象徴。

文明の行き着く先

文明の機械化こそ、人が矛盾をかかえモノ化したがることの象徴であり、その行きつくところに流れはなくなってきてしまう...



なぜ人は流れを無視したがるのか？

理由①人にだけ知性がある。

知性はもともと"モノ"を扱う器官。動物は自殺をしない。

- 固い・動かない・形のあるもの
- これを把握するために発達したのが知性
- だから「動き」を止めて理解したがる癖がある
- 動物は自殺をしない。であるならば、動物にはないこの知性(思考)こそが、人が自ら命を絶つ、その生命の流れを究極的に固定化してしまう最大の原因と考えることができる。
- では、なぜ人は流れを固定化して考えようとするのか？



理由②

静止した方が考えやすい



流れの複雑さ

流れは複雑で連続的



知性の単純化

知性はこれを"切り分け""単純化"しがち



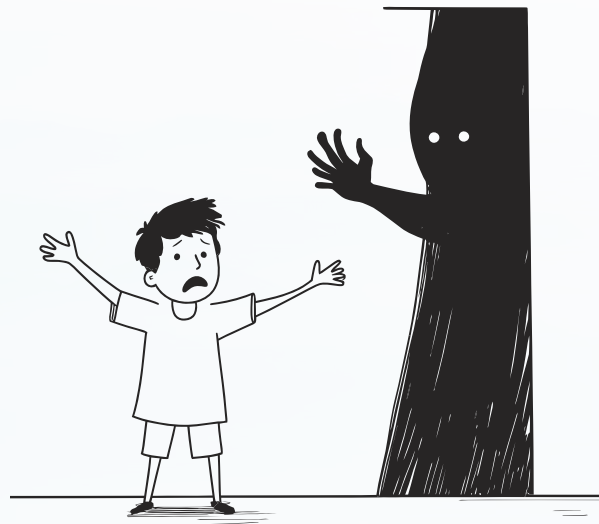
理解のズレ

その結果、現実からズレた理解が生まれる

理由③

流れは予測不能で怖い

- 持続は創造性を持ち、予測不能
- 人間は安心したいので止めて理解する
- この予測不能なことへの恐怖こそが、矛盾した思考によるモノ化の最大の原因かもしれない。



事実社会システムはどんどん静止化し、それを好み現実化している。

社会の分類例

科学、医学、教育、法律など。分かりやすい例でいえば、内科、外科、整形外科。1年生、2年生、3年生。マイナンバーカード。

システムの特徴

"分類・再現・固定"が必要な分野が社会を構成

私たちへの影響

その影響で私たちも「静止理解」に慣れてしまう

皮肉な現実

というより、人の知性が矛盾を抱えやすいことにきわめて気づきにくいから、人が考えて考えて考えるほど、皮肉にも流れを分断した静止したものとしての社会が広がっているのが現実。

ここで思い出して欲しい。信念(無意識)は現実化する。その根底にある心を現実化する。つまり人は社会であれ、自分自身のことであれ「静止」「固定」といった時間の流れと切り離された「モノ」を作り出しやすい。これが人の本質的な心理構造にある。

症状を"点"で見ると誤解する



- 評価は「流れ」の中にある
- 一瞬の写真では何も分からない
- 既往歴を聞くとか、背景を聞くというのはそれだけで大きな価値も意味もある。そこがない構造だけの治療はまさに人を本質的な流れから切り離れた治療である

感情は静止語で捉えると本質が消える

流れとして見る

怒り・不安ではなく"流れ"として見る

感情リリースの本質

感情リリースは流れの回復そのもの

流れの治療の例

忙しすぎるから、交感神経が優位、であるから、この症状。だから、やらないでいい仕事をさがしてみてくださいね。というような流れの治療

静止の治療の例

交感神経リリース!硬い筋肉リリース!

この施術の本質的な違いに気が付けているか?というのはお客様の治療結果にも人生にも、もちろん私達自身にも大きな意味を持つ。

静止理解は"偽の問題"を生む



偽の問題の発生

ゼノンの矢のように、頭の中にしか存在しない矛盾を作ってしまう



現象①

だから、延々と構造的なテクニックのセミナーに通うような現象が生じる。



現象②

いつまでたっても、自分の治療に自信がもてない現象が生じる。



現象③

お客様の症状が治らない現実が固定化される。



本質への回帰

すべては流れているという視点に立ち返り、その流れに戻すお手伝いそして、流れている変化しているのであれば、かりにそれは一見症状が良くならなかったとしても、本質的な流れに立ち戻っているので、優しく見守ってあげればいい。

であるならば...



究極の機能障害

人が知性の結果作り出した、究極の機能障害の点を探す必要がある。



それが特異点

それが特異点。



問いかけ

本来流れているはずの時間をどのようにして止めているのか?そしてそれをどのようにリリースし改善(流れに戻す)のか?



答えの先に

その答えこそが・・・



全てを凌駕するリ
リースの到達点。

特異点リリース